

令和2年度 Sport in Life 推進プロジェクト
(スポーツ実施を阻害する課題解決のための実証実験)
「楽しい運動遊び教室」

事業報告書

令和3年2月

公益財団法人 滋賀レイクスターズ

令和2年度 Sport in Life 推進プロジェクト
(スポーツ実施を阻害する課題解決のための実証実験)
「楽しい運動遊び教室」
事業報告書

目次

<u>本事業の目的</u>	1
<u>1. 本事業の実施概要</u>	2
<u>(1) 本事業のターゲット</u>	2
<u>(2) ターゲットのスポーツ実施の阻害要因、促進要因 (事業実施前の仮説)</u>	3
<u>(3) 本事業で期待される効果</u>	4
<u>2. 本事業の実施内容</u>	5
<u>(1) 事業の実施概要</u>	5
<u>(2) 事業の実施結果</u>	7
<u>3. 本事業の実施体制</u>	12
<u>(1) 本事業の実施体制</u>	12
<u>(2) 本事業の実施スキーム</u>	12
<u>4. 事業の実施効果 (スポーツ実施頻度、実施意欲の改善効果)</u>	13
<u>(1) 効果検証方法</u>	13
<u>(2) 効果検証の結果</u>	14
<u>5. スポーツ実施改善の要因の分析 (阻害要因や促進要因の仮説検証)</u>	21
<u>6. 今後の事業展開予定</u>	26
<u>(1) 事業継続や横展開に向けたポイント、課題</u>	26
<u>(2) 次年度以降の事業継続、横展開の計画</u>	26
<u>(3) 今後の事業展開に向けて期待される sport in Life プロジェクトにおける取組</u>	27
<u>7. 終わりに</u>	28
<u>参考資料：アンケート調査票</u>	29

本事業の目的

本事業は、スポーツ参画人口の拡大に向けて、**Sport in Life** コンソーシアム加盟団体が連携・協働して実施する取組を後押しするとともに、先進事例を形成することにより、全国各地にスポーツ参画人口の拡大に向けた取組を展開するためのモデルを創出することを目的に実施したものである。

◆事業実施の背景

大津市在住の運動が苦手な母親がいる4歳～6歳の未就学児約1,709人を対象とし、内、スポーツ実施率は約55%である。尚、滋賀県全体では約7,200人、全国では約82万人、スポーツ実施率は、それぞれ概ね50%である。

◆事業実施の目的

運動参加しやすい環境において、楽しさを重視した運動プログラムを提供し、体を動かし遊ぶ楽しさを感じてもらうことにより、運動・スポーツをすることが好きになる者の増加を狙う。

過去の未就学児向けの事業での運動が好きになった者の割合90%と同様の成果を目指す。

1. 本事業の実施概要

(1) 本事業のターゲット

○子供：主に未就学児 4歳～6歳

- ・ 大津市の新興住宅街(瀬田東、平野、堅田、青山、滋賀学区)在住の未就学児
- ・ 幼稚園に通っているが習い事はしておらず、人見知りで少し引っ込み思案な性格

○家族像

上記の未就学児の親である 20歳代～30歳代 ビジネスパーソン及び女性をターゲットとする。

本事業では、滋賀県大津市内 5 学区を実証フィールドとし、大津市内の保育所・幼稚園に通う 4歳～6歳の未就学児童を主なターゲットとする。

同時に、自宅で手軽にできる運動遊びプログラムを提供することにより、子育て中の 20歳代～30歳代の親もターゲットとして事業を実施する。

(2) ターゲットのスポーツ実施の阻害要因、促進要因（事業実施前の仮説）

【4歳～6歳の未就学児童のスポーツ実施を妨げている要因】

4歳～6歳の未就学児童のスポーツ実施率が低下及び阻害要因（仮説）としては、

【環境】

- ・ 地理的に遊べる場所がない
- ・ 危険な場所、人がいる
- ・ 通いやすい場所に教室がない

【運動が苦手】

- ・ 何をしたら良いか分からず外遊びをしない
- ・ 遊ぶ場所が限られたり、マンネリ化することで、多様な動きが習得できない
- ・ 一緒に遊ぶ友だちがいないため外に出ない
- ・ 家の中で遊ぶことが好き

子育て中の20歳代～30歳代の主婦のスポーツ実施を妨げている要因としては、以下図表1の通り

【保護者の負担】

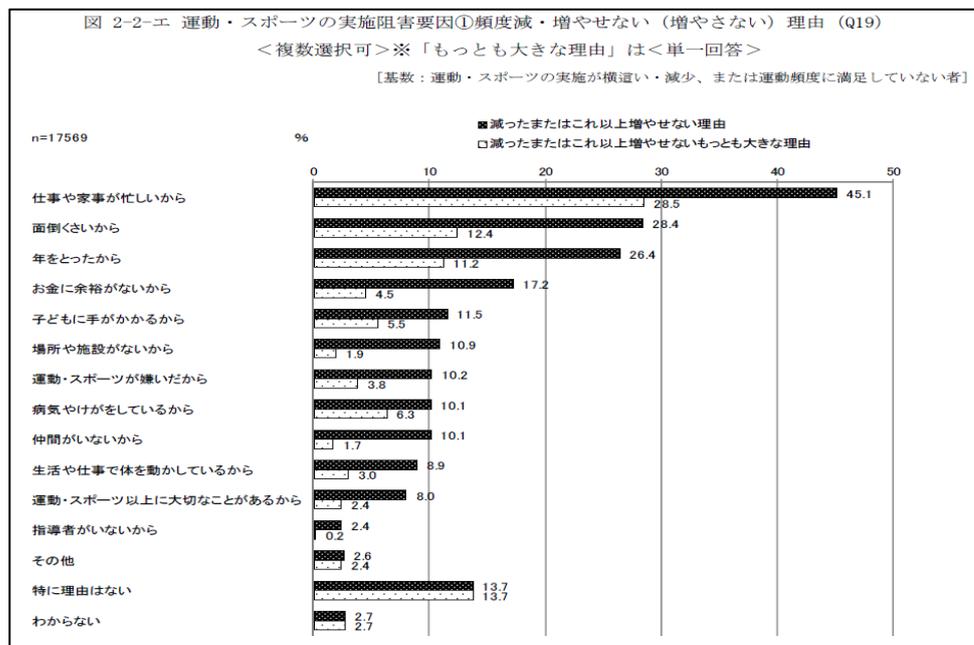
- ・ 送迎の負担が大きい
- ・ 仕事、家事で疲れて付き添いが大変
- ・ 他にすることがあり付き添いができない
- ・ 保護者の係、当番の負担を避けたい
- ・ 教室参加は費用負担が大きい

【運動の効用を知らない】

- ・ 情報を得る場所がない
- ・ 文章のみで上手く伝わってこない

という原因が指摘されている。

図表 1



【出所】スポーツ庁健康スポーツ課「スポーツの実施状況等に関する世論調査」（平成30年1月調査）より

(3) 本事業で期待される効果

【4歳～6歳の未就学児童への期待される効果】

本事業では、4歳～6歳の未就学児童のスポーツ実施意欲の向上を図るとともに、プログラム終了から1か月経過した後のスポーツの実施状況を調査し、習慣化に向けた検証を行う。

期待される効果は下記の通り。

①スポーツ実施意欲の向上

プログラムの実施前後で、運動遊びを楽しいと感じる、他のスポーツプログラムもやってみたいと思う児童の割合が50%増加。

②スポーツ実施の習慣化

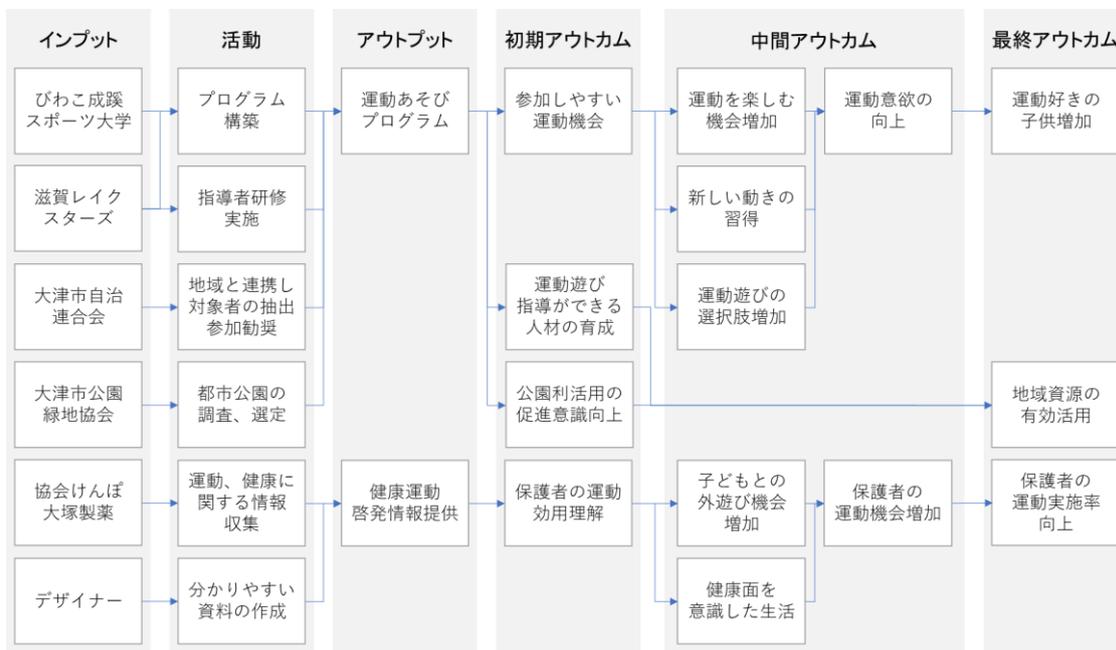
プログラム終了の1か月後に、継続してスポーツを実施している児童の割合が50%。

【子育て中の20歳代～30歳代の女性への期待される効果】

- ・保護者の阻害要因の軽減
- ・費用負担がない
- ・運動の効用の理解

【ロジックモデル】

図表 2



2. 本事業の実施内容

(1) 事業の実施概要

【概要】

4歳～6歳の未就学児童を主なターゲットとして、大津市内にある都市公園や運動施設を会場に自治体単位での取組とし、運動機会を日常生活に組み込みやすくすることで、スポーツ実施率向上並びに、スポーツ好きになることを目指す。

また、自治体単位でスポーツボランティアがプログラム提供となること、子どもを連れて来る保護者もターゲットとすること、行政財産の利活用や地域コミュニティ形成などの社会課題の解決に取り組むこと、熱中症対策などの啓蒙活動に取り組むこと等により、事業の持続性や横展開を見据えた事業とする。

【ターゲット】

- ・大津市内の5学区(平野・瀬田東・堅田・滋賀・青山)在住の4歳～6歳の未就学児
- ・幼稚園に通っているが習い事はしておらず、人見知りで少し引っ込み思案な性格の子ども
- ・子育て中の20歳代～30歳代の主婦

具体的な事業の実施内容は下記の通り。

事業①：公園等でできる簡単な運動プログラムの設計・提供

子供が親と一緒に自宅でも運動を楽しめる運動遊びプログラムを設計する。

具体的な運動遊びプログラムの内容は下記の通り。

【ボール遊び】

- ・ボールキャッチ
- ・まりつき
- ・ボール当て
- ・ビブスでボールフィーリング

【仲間遊び】

- ・ビブス投げフィーリング
 - ・ビブスでしっぽ取り
 - ・コーン倒し、起こしゲーム
- などを実施。

また、開催までと終了後は、プレイパーク(昔遊び)の竹馬・縄跳び・けん玉・輪投げ・駒まわし・フラフープなどを用意し実施。

学区内の自治会単位で子供たちに身近な運動環境を提供するために、近隣の公園やで上記の運動遊びプログラムを提供した。

【開催内容】

- ・幼児向けの運動あそびを実施
- ・11月～1月、月10回開催。

【事業開催当日スケジュール（場所、曜日によって、午前及び午後で開催）】

- ・ 9:30(14:30)～10:00(15:00)：受付開始＋昔遊び実施
- ・ 10:00(15:00)～11:00(16:00)：運動あそびを実施

また、運動遊びプログラムに同行した保護者に向けた啓蒙を行い、健康意識および運動実施意欲の増進を行った。

【保護者向けの啓蒙活動の内容】

運動不足がもたらす様々な生活習慣病の発症リスク、死亡リスクを説明した資料を作成配布したうえ、プログラム開催時に直接説明を行った。健康に関する意識を変革することで、ご自身の運動機会の増大、および、子どもとの運動機会の促進を図った。

事業②身近な指導者の育成

県内の総合型地域 スポーツクラブの指導者やスポーツボランティア、スポーツ選手育成者を対象に、指導ノウハウの研修を実施した。

具体的には…

地域の運動・スポーツ実践の拠点である総合型地域 スポーツクラブの指導者やスポーツボランティア、スポーツ選手育成者を対象にプレイリーダーの講習会を実施し、プレイリーダー(指導者)を養成することによって、県内の様々な地域で、運動遊びプログラムの実践や普及ができる環境づくりを促進できる。

(2) 事業の実施結果

事業①スポーツプログラムの設計

子供が親と一緒に自宅でも運動を楽しめる運動遊びプログラムを設計する。
具体的には…

【ボール遊び】

1：ボールキャッチ

- ・空中でキャッチ(クワガタ取り・カブトムシ取り) ・拍手でキャッチ

2：まりつき

- ・バスケットボールへの動機づけ ・最初は、両手で行い、次に片手で行う

3：ボール当て

- ・投げてボールを当てる ・最初は、両手で行い、次に片手で行う
- ・状況次第で、蹴ることにも挑戦させる

4：ビブスでボールフィーリング

- ・2人1組になり、ビブスを張ったり、傾けたりしてボールを受ける
- ・目標の場所まで運ぶなど

【仲間遊び】

1：ビブス投げフィーリング

- ・1人1着、ビブスを投げたり、走ったりする

2：ビブスでしっぽ取り

- ・1人1着ビブスを後ろに着け、取り合いを行い、取った子は返してあげる

3：ビブスでしっぽ取りのチーム戦

- ・取るチームと取られるチームに分かれて、どれだけ取れるかを競う

4：コーン倒し、起こしゲーム

- ・コーンを倒すチームと起こすチームに分かれて競うゲーム

など

また、竹馬・縄跳び・けん玉・輪投げ・駒まわし・フラフープなどの昔遊びの用具を置いて実施、設計した。

プログラムの特徴は、、、、

幼児期から運動することで、『自分の体が思うように動く＝自分の体と仲良くなる事』が大切である。そして、体力の向上はもちろん、遊びの中で瞬時に判断したり、ルールを覚えたりすることで、判断力や記憶力といった『認知能力』、仲間と相談したり順番を待ったりすることで、協調性や忍耐力、コミュニケーション能力などの『非認知能力』を育てることにつなげる。

●開催日数及び参加人数

合計：2020年11月～2021年1月 開催日数 28日 401名

<月別集計>

2020年11月：開催日数 9日 121名 12月：開催日数 10日 168名

2021年1月：開催日数 9日 112名

<学区別集計>

青山学区：開催日数 3日 50名

堅田学区：開催日数 3日 39名

滋賀学区：開催日数 5日 48名

瀬田東学区：開催日数 6日 50名

平野学区：開催日数 11日 214名

図表3

日付	学区	開催時間	申込数	参加者数
11/28(土)	青山	10:00～11:00	26人	19人
12/19(土)	青山	10:00～11:00	18人	17人
1/16(土)	青山	10:00～11:00	17人	14人
11/21(土)	堅田	10:00～11:00	31人	25人
12/16(水)	堅田	15:00～16:00	7人	5人
1/29(金)	堅田	15:00～16:00	16人	9人
11/9(月)	滋賀	15:00～16:00	—	—
11/23(月)	滋賀	10:00～11:00	18人	14人
12/14(月)	滋賀	15:00～16:00	6人	6人
12/26(土)	滋賀	10:00～11:00	27人	20人
1/12(火)	滋賀	15:00～16:00	8人	1人
1/26(火)	滋賀	15:00～16:00	10人	7人
11/16(月)	瀬田東	15:00～16:00	9人	5人
11/25(水)	瀬田東	15:00～16:00	3人	3人
12/7(月)	瀬田東	15:00～16:00	15人	12人
12/21(月)	瀬田東	15:00～16:00	22人	17人
1/8(金)	瀬田東	15:00～16:00	13人	6人
1/22(金)	瀬田東	15:00～16:00	14人	7人
11/4(水)	平野	15:00～16:00	14人	14人
11/11(水)	平野	15:00～16:00	16人	11人
11/18(水)	平野	15:00～16:00	22人	20人
11/25(水)	平野	15:00～16:00	22人	10人
12/2(水)	平野	15:00～16:00	27人	22人

12/9(水)	平野	15:00～16:00	28人	27人
12/16(水)	平野	15:00～16:00	29人	22人
12/23(水)	平野	15:00～16:00	32人	20人
1/13(水)	平野	15:00～16:00	31人	25人
1/20(水)	平野	15:00～16:00	28人	20人
1/27(水)	平野	15:00～16:00	32人	23人
			541人	401人

事業②身近な指導者の育成

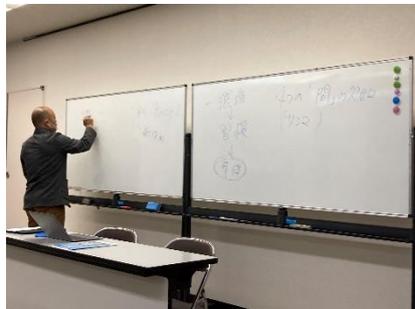
県内の総合型地域スポーツクラブの指導者やスポーツボランティア、スポーツ選手育成者を対象に、指導ノウハウの研修を実施した。

名称	「楽しい運動遊び教室」プレイリーダー(指導者)講習会
開催日時	第1回 11月7日(土)、第2回 12月12日(土)
開催場所	第1回：瀬田公園体育館 第2回：滋賀県立武道館、におの浜ふれあいスポーツセンター
アジェンダ	講師：聖泉大学・人間学部 炭谷将史教授 ・10時00分 開会 ・10時00分～11時00分 講義 ・11時00分～12時00分 実技
参加者概要	第1回 11月7日(土) 総合型地域スポーツクラブ指導者 1名 スポーツボランティア 7名 スポーツ選手育成者 2名 第2回 12月12日(土) 総合型地域スポーツクラブ指導者 1名 スポーツボランティア 3名 スポーツ選手育成者 2名

◆当日の様子は下記の通り。

第1回 11月7日(土) 瀬田公園体育館

【講義】



【実技】



第2回：12月12日(土) 滋賀県立武道館、におの浜ふれあいスポーツセンター

【講義】



【実技】



◆プレイリーダー(指導者)講習会

参加者の属性

【年齢】

- ・第1回：10歳代 1名 / 20歳代 4名 / 30歳代 1名 / 40歳代 2名
50歳代 2名 / 60歳代 1名 / 70歳代 1名
- ・第2回：20歳代 1名 / 30歳代 2名 / 50歳代 3名 / 60歳代 1名

【性別】

- ・第1回：男性 8名 / 女性 4名
- ・第2回：男性 4名 / 女性 3名

3. 本事業の実施体制

(1) 本事業の実施体制

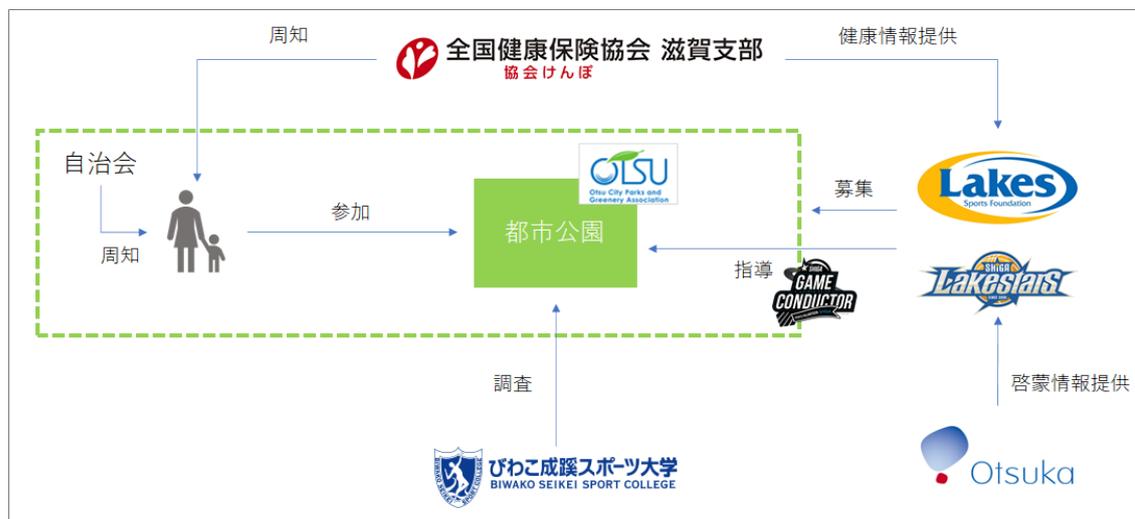
本事業の実施体制は下記の通り。

実証フィールド	滋賀県大津市内 5 学区(平野・瀬田東・堅田・滋賀・青山)の公園及びコミュニティセンター
代表団体	公益財団法人滋賀レイクスターズ*
構成団体	公益財団法人大津市公園緑地協会* / びわこ成蹊スポーツ大学 / 大津市自治連合会 / 全国健康保険協会滋賀支部* / 大塚製薬株式会社* / 株式会社滋賀レイクスターズ*
構成団体以外の参画団体	監修：聖泉大学人間学部 炭谷将史教授 / 公益財団法人滋賀県スポーツ協会 大橋寛治クラブアドバイザー

※ 「*」は Sport in Life コンソーシアム加盟団体

(2) 本事業の実施スキーム

図表 4 体制図



4. 事業の実施効果（スポーツ実施頻度、実施意欲の改善効果）

（1）効果検証方法

【4～6歳の児童への事業実施に関する効果について】

4～6歳の児童に対して実施した事業の効果を検証するために、各回終了後にアンケート調査を実施した。調査項目については、実施時期を3期に分け、下記の通り調査項目を検討・調整した。尚、各調査項目については、調査担当であるびわこ成蹊スポーツ大学担当教員にて検討をおこない、また、参考資料として、平成30年度大津市スポーツ推進計画進捗管理に係る市民意識調査に基づいて各種質問項目を設定した。

調査に関する総回答数は319票であった。

図表5

調査時期	主な調査項目
第1期（参加申込時）	<ul style="list-style-type: none">・参加理由・児童の運動に対する意向
第2期（プログラム開催時）	<ul style="list-style-type: none">・参加プログラム評価（10点満点にて評価）・NPS（ネット・プロモーター・スコア）による事業評価・児童の運動阻害要因・事業参加前後における運動に対する意識変化
第3期（全プログラム終了後）	<ul style="list-style-type: none">・児童の運動に対する興味の変化・児童の運動継続意向・保護者の運動に対する興味の変化・保護者の運動促進要因・保護者の運動に対する意向

※NPS（ネット・プロモーター・スコア）とは顧客のロイヤルティや継続利用意向といった顧客の態度や推奨度を数値化する指標を指す。

(2) 効果検証の結果

【4～6歳の児童への実施効果】

4～6歳の児童に対する事業への検証結果は以下の通りとなった。

①参加児童

アンケート調査に回答いただいた参加児童は以下の通りとなった。

図表6 参加児童年齢 【第2期調査】

項目	n	%
4歳	149	46.7
5歳	123	38.6
6歳	68	21.3
合計	340	—

※兄弟などの参加による複数回答あり

②参加プログラム評価

本事業におけるプログラムに対する総合的評価を10点満点にて回答を得た。平均値は【9.13】であり、全体の60%以上が「10点」という回答となった。

図表7 実施プログラム評価 【第2期調査】

得点	n	%
4	1	0.9
5	1	0.9
6	3	2.8
7	8	7.4
8	18	16.7
9	11	10.2
10	66	61.1
合計	108	100.0

※1～3点は0票であった。

③NPS（ネット・プロモーター・スコア）による事業評価

NPSとは顧客ロイヤルティを数値化する指標のことであり、「あなたは今回のイベントを家族や友人にどの程度薦めようと思いますか？」という設問に対し、0～10点満点で回答を得た。なお、このNPSにおいては、0～6点を付けた人を「批判者」、7～8点を付けた人を「中立者」、9～10点を付けた人を「推奨者」とカテゴリ分けをする。

集計結果より平均点は【9.07】と参加プログラムと同様に他者への推奨意向も高く、「批判者」は8.6%、「中立者」は18.1%、「推奨者」は73.4%という結果であった。

図表8 NPSによる事業評価 【第2期調査】

得点	n	%
5	5	4.8
6	4	3.8
7	8	7.6
8	11	10.5
9	11	10.5
10	66	62.9
合計	105	100.0

※0~4点は0票であった。

④お子さまの運動に対する興味の変化

次に、複数回参加いただいた児童に対して、今回の運動教室に参加することによる運動に対する興味の変化について「0:まったく変化がない～10:とても変化があった」の11段階にて調査を行った。その結果、平均点は【7.06】となり、今回の運動教室の実施が参加児童に対する運動への興味の変化を与える最良の機会提供となったことが判断できる。

※6点以上の回答が「変化があった」と判断することが可能な指標である。

図表9 運動教室に参加したことによって、
お子様の運動に対する興味に変化はありましたか？ 【第3期調査】

得点	n	%
0	1	0.8
1	0	0.0
2	2	1.6
3	5	4.1
4	3	2.4
5	20	16.3
6	10	8.1
7	23	18.7
8	34	27.6
9	6	4.9
10	19	15.5
合計	123	100.0

⑤お子さまの運動に対する継続に関する態度

続いて、同様に複数回参加いただいた児童に対して、今回の運動教室に参加することによる運動に対する継続の態度的変化について「0:まったく変化がない～10:とても変化があった」の11段階にて調査を行った。その結果、平均点は【6.46】となり、多くの児童が教室以外の場所においても、運動を実施するようになったという変化を保護者が実感していることが明らかとなった。

※6点以上の回答が「変化があった」と判断することが可能な指標である。

図表10 運動教室に参加したことによって、
教室以外の場所で運動を継続するようになったか？ 【第3期調査】

得点	n	%
0	7	5.8
1	1	0.8
2	5	4.1
3	4	3.3
4	1	0.8
5	22	18.2
6	15	12.4
7	15	12.4
8	25	20.7
9	10	8.3
10	16	13.2
合計	121	100.0

⑥興味の変化と継続意向のクロス集計

また、④の興味変化と⑤の継続意向のクロス集計をおこなった。その結果、概ねの児童において運動に対する興味の変化と継続意向の変数間に強い相関があることが確認できた(相関係数=.704**, p**<.01)。回答割合 5%以上のセルをハイライトにて示すと変化と継続に関して非常に好意的な反応がみられる。

図表 1 1 クロス集計表 (%) 【第 3 期調査】

“運動教室に参加することで” 教室以外の場所で運動を継続するようになったか？		“運動教室に参加することで” 運動に対する興味の変化はあったか？										
		得点	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
“運動教室に参加することで” 運動に対する興味の変化はあったか？	10	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.8	0.0	0.0	1.7	1.7	10.8
	9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.8	0.0	0.0	0.0	3.3	0.0
	8	1.7	0.8	0.0	0.0	0.0	0.8	0.8	3.3	15.8	2.5	1.7
	7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.5	6.7	7.5	1.7	0.8	0.0
	6	0.8	0.0	1.7	0.0	0.0	0.8	3.3	0.8	1.7	0.0	0.0
	5	1.7	0.0	0.0	0.8	0.0	10.8	0.8	0.8	0.8	0.0	0.8
	4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.7	0.8	0.0	0.0	0.0	0.0
	3	0.8	0.0	0.8	2.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	2	0.0	0.0	1.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	0	0.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

※ 「0:まったく変化がない～10:とても変化があった」

⑦運動が不得意な児童によるポジティブな変化について

本事業参加の児童のうち「運動が不得意」と答えた保護者の回答のみを抜粋して、その後の変化を確認したところ、(1)興味、継続ともに変化があった児童が一定数いた、(2)不得意故に継続は低いものの運動への興味に対する変化において高い得点を付けた回答が一定数いた、以上2点が明らかとなった。運動継続に対する変化については、より中長期的な運動機会の提供が必要であると考えられる。

図表12 クロス集計表 (%) 【第3期調査】

変化はあったか？	“運動教室に参加することで” 運動に対する興味の	“運動教室に参加することで” 教室以外の場所で運動を継続するようになったか？										
		得点	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
	10	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	3.4	0.0
	8	6.9	3.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	3.4	0.0	0.0
	7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	3.4	0.0	10.3	0.0	3.4	0.0
	6	0.0	0.0	6.9	0.0	0.0	3.4	3.4	0.0	0.0	0.0	0.0
	5	6.9	0.0	0.0	0.8	0.0	20.7	0.0	0.0	0.0	0.0	3.4
	4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	3.4	3.4	0.0	0.0	0.0	0.0
	3	0.0	0.0	3.4	10.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

⑧保護者における運動に対する興味の変化

関連して、運動教室に参加したことによる保護者の運動に対する興味の変化について、「0:まったく変化がない～10:とても変化があった」の11段階にて調査を行った。その結果、平均点は【7.34】となり、参加児童に加えて、保護者における運動に対する興味についても、一定以上の心理的变化があったことが明らかになった。

※6点以上の回答が「変化があった」と判断することが可能な指標である。

図表13 運動教室に参加したことによって、
保護者の運動に対する興味に変化はありましたか？ 【第3期調査】

得点	n	%
0	0	0.0
1	0	0.0
2	2	1.7
3	2	1.7
4	2	1.7
5	21	17.5
6	9	7.5
7	19	15.8
8	37	30.8
9	5	4.2
10	23	19.2
合計	120	100.0

⑨全体考察

これまでの調査結果から、下記3点について理解することができる。

(1)今回の事業(運動教室)が参加児童ならびに保護者にとって、非常に好評であり、他者への推奨意向も高いこと。

(2)事業に関する波及効果として、参加児童における運動に対する興味の変化と運動教室以外の場所においても運動を継続的に実施する傾向があるということ。

(3)また、児童における興味の変化と継続的な実施意向には強い相関関係がみられ、保護者においても運動に対する興味の変化がみられたということ。

以上より、今年度本事業の地域における運動機会の提供は、児童ならびに保護者にとって運動に対する意識の変化となる良いきっかけとなり、また、参加児童における行動的ならびに心理的な変化についても概ねポジティブな結果を得られたことが明らかとなった。

5. スポーツ実施改善の要因の分析（阻害要因や促進要因の仮説検証）

【4～6歳の児童におけるスポーツ実施改善要因の分析】

4～6歳の児童のスポーツ実施の阻害要因について以下の通り調査を実施した。

①参加児童運動に対する意識

まず、事前情報把握として参加児童における運動に対する「好き嫌い」と「得意不得意」について、調査を行った。その結果、多くの児童が運動は「好き」ではあるが、「得意不得意」に関しては、約20%の児童において「どちらかというと不得意」な児童がいることが判明した。

図表14 参加児童の運動に対する「好き嫌い」 【第1,2期調査】

項目	n	%
嫌い	0	0.0
どちらかというと嫌い	2	1.5
どちらかというが好き	45	34.1
好き	85	64.4
合計	132	100.0

図表15 参加児童の運動に対する「得意不得意」 【第1,2期調査】

項目	n	%
不得意	3	0.9
どちらかというと不得意	28	21.2
どちらかというと得意	80	60.6
得意	21	15.9
合計	132	100.0

②運動阻害要因の特定

次に、児童における運動をする機会の妨げとなる要因について調査を行った。その結果、一番多かったのが「仕事や家事が忙しくて遊ぶ時間が取れない」という結果となり、以下、「場所がない」や「仲間がない」など、児童にとって直接的な原因とは考えにくい外部要因が運動機会を妨げていることが理解することが出来る。

また、運動が「好き」な児童が多いものの、その意向を運動機会の提供として保護者が反映できていないことが理解することが出来る。

この観点からも、第三者となる地域スポーツクラブをはじめとする重要な他者がその機会提供となる場所を設定し、様々なプログラムを用いて「運動好き」になってもらえるような取り組みは今後も必要不可欠であり、こういった事業そのものが準公共財として、取り計らわれる必要があることも理解することができる。

図表 1 6 児童における運動する機会の妨げとなる要因 【第 2 期調査】

項目	n	%
仕事や家事が忙しくて遊ぶ時間がとれない	33	45.2
近くに適切な場所がない	27	37.0
仲間がない	17	23.3
面倒くさい	10	13.7
運動、スポーツが嫌い	2	2.7
特になし	14	19.2
その他	6	8.2

※回答数は 73 票。複数回答可。

その他（自由記述）

家に帰るとすぐにゲームをしたがる

すぐに遊ぶ環境を作ってあげられない、教えてあげられない

公園に行こうと誘ってもお友達がないから。

行かないと断られると、つい家で過ごしてしまう。

公園はあるが球技などができる所が少ない。

下の子どもから目が離せず、上の子とゆっくり遊べない。（※同意見複数票あり）

③運動促進要因の検討

次に、運動促進要因の特定については、保護者の運動に対する意識や促進要因の特定ならびに運動実施意向をアンケート調査にて明らかにした。

その理由としては、4～6歳の児童に対する運動参加可否の意思決定者である保護者の意向を明らかにすることで、更なる運動の促進や親子で身体を動かす機会が創造されるのではないかと想定したことを起因とするためである。

まず、保護者における現在の運動実施状況について、約8割の保護者が身体を動かすようにしているという結果となった。

図表17 保護者における運動実施状況 【第3期調査】

項目	n	%
動かそうとしていない	28	22.6
時々動かすようにしている	81	65.3
日頃から動かすようにしている	15	12.1
合計	124	100.0

続いて、保護者が運動・スポーツをしたいと思う理由について、以下図表にまとめた。その結果として、「運動不足解消のため」が約75%と最も多く、以下、「健康・体力増進のため」「ストレス解消として」が続く結果となった。

図表18 保護者の方が運動・スポーツをする、あるいはしたいと思う理由 【第3期調査】

項目	n	%
仲間との交流として	17	13.6
記録や結果を残したいから	0	0.0
健康・体力増進のため	90	72.0
ストレス解消として	44	35.2
家族とのふれあいとして	38	30.4
楽しみとして	39	31.2
精神修養のため	6	4.8
運動不足解消のため	94	75.2
美容・肥満解消のため	38	30.4

※回答数は125票。複数回答可。

また、「保護者の方は今後、運動・スポーツをやりたいと思いますか？」という形で保護者における運動実施意向を確認したところ、回答者の98%が「やりたい」という意向を示した。今回の本事業は4～6歳の児童を対象とした運動教室を実施したが、この結果から単

に児童に対する運動促進アプローチのみならず、保護者の方も一緒に運動できる機会を提供し、家族で身体を動かすことのできる環境や機会を創造することが地域における運動促進をアプローチすることが出来るのではないだろうかと考察する。

図表 19 保護者における運動実施意向 【第3期調査】

項目	n	%
あまりやりたくない	2	1.6
できたらやりたい	78	62.4
是非やりたい	45	36.0
合計	125	100.0

④考察

本事業における運動阻害要因の特定については、本事業に参加した児童の大半が「スポーツが好き」また「スポーツが得意」な児童であったため、運動阻害要因の多くは、保護者のスケジュールや、場所がないといった外的要因を起因とする要因であった。

また、基本的に本事業のような子どもの運動機会提供イベントへの参加に関する最終的な意思決定者は保護者であるため、保護者へどのようなアプローチをおこなうかが、今後継続的に本事業を実施するにあたり継続的かつ安定的な参加を見込むために必要な条件になると考える。

関連して、保護者における運動実施意向は非常に高く、「運動不足解消のため」や「健康・体力増進」といった目的で身体を動かしたい、スポーツをしてみたいという気持ちがある事からも、単に子どもの運動機会を促すアプローチのみならず、親子で身体を動かすことのできる機会を提供することで保護者の意思決定にもポジティブに作用するのではないかと考える。

今年度は4～6歳の児童を対象としたプログラムを展開したが、今後は親子参加型プログラムの構築や整備についても一考の余地がある。

大津市が平成31年に実施した市民調査によれば、体を動かさそうと思う条件として、「身近なスポーツ施設やスペースの存在」、「体力や好みに合ったスポーツの発見」、「仲間がいるなど、誰か誘ってくれれば」という条件の整備が挙げられている。

本事業における自由記述による参加理由を確認すると、「ボールに慣れてほしかった」、「お友達に誘っていただいた」、「体を動かす体験をしてほしかった」という回答が多く見られ、上記当該条件と合致しており、運動阻害要因の特定ならびにその実証実験としての機会提供としても、一定以上の成果を挙げることが出来たと考えてもよいと判断できる。

以上を総括し、今年度、本事業の実施を通じて、3点の効果が見られた。

(1) 誰でも気軽に運動体験が可能にする「遊び場の提供」

(2) 「様々な年齢の交流」によるコミュニティの創造

(3) 専門的プログラム提供による「新しい遊びの発見」

(※また、(3)については、保護者にとっては自宅などにおいても取り組めるプログラムの享受の機会にもなった。)

また、次年度以降、更なる事業の発展ならび地域におけるプレゼンス向上に向けての取り組みとして以下の事項を提案したい。

・親子に対する「運動機会の提供」

→親子による運動を通じて、「おうち遊びの充実」「親御さんの運動不足解消」「新たなスポーツコミュニケーションの構築」が期待でき、保護者（女性やビジネスパーソン）への継続的な運動機会の訴求にも直結するのではないかと考える。

・多様性を考慮した誰もが遊べる・運動できる・体を動かすことの出来る「ソーシャルコミュニティ」の構築

→今年度事業においては、児童に対する運動教室であったが、体の動かし方やスポーツの技術指導をおこなうことのみならず、地域における老若男女様々な方が気軽に参加できる、運動の指導を受けられる環境となるスポーツを通じたソーシャルコミュニティの構築を目指すことも運動機会促進の場として考えることが出来るのではないだろうか。

・プロバスケットボールクラブとしての認知活動ならびに地域貢献活動

→アンケート調査の項目として、「あなたはBリーグ・プロバスケットボールクラブ「滋賀レイクスターズ」をご存知ですか？」と尋ねたところ、約30%において「名前は聞いたことがある」という回答に留まった（※他回答：よく知っている14%、知っている53%、知らない3%）。

本事業は、総合型地域スポーツクラブ「滋賀レイクスターズ」としての活動ではあるが、本運動教室が地域とクラブを繋ぐ役割を果たすことも視野に入れたコンテンツの充実（※例えば選手に教えてもらったり運動教室終了後に試合観戦に行くなど）を検討してもよいのではないかと考える。

6. 今後の事業展開予定

(1) 事業継続や横展開に向けたポイント、課題

事業継続に際して必要な要素は主に次の3点であると考えられる。

- ① 財源確保
- ② 指導者確保
- ③ 会場選定

①財源確保については、実施時の講師謝礼、会場代、備品代、運営事務局負担金などを賄うことが継続性を担保するためには重要であり、スポンサー獲得、近隣市町との連携による補助事業化などを検討、打診していく必要がある。

②指導者確保に関して、幼児向けの教室を展開する場合、保護者間での口コミが事業拡大の大きな要素となる中で、適切な指導ができる人材を継続して確保し、育成していくことが重要である。スポーツボランティアからの登用、研修会の定期開催などを通じて、指導内容やクオリティの向上を目指した動きが必要となる。

③会場選定においては、実施時期の兼ね合いで屋外での実施を嫌う参加者が一定数いること、安全な環境が整っていない屋外環境であればケガのリスクが高まることなどを考慮すると、屋内での実施が推奨される。また、立地的に駅チカ、または、収容台数の大きな駐車場があること、ターゲット層がアクセスしやすい場所であることなども重要な要素である。

その他、自治体を巻き込んでの事業展開はプロモーションや会場選定、スムーズな事業進行において奏功していることから、ステークホルダーへの事前の案内と協力依頼、関係各所との調整を経たうえでの事業実施は必須であると感じる。

集客面では、大々的な広告露出をすることでリーチしきれない層にも届けることができたのではないかという部分は検討の余地があったかと悔やまれる。費用対効果を考慮しながら、足を使って幼稚園等への案内実施等、直接的なアプローチができた点はポジティブな側面である。

(2) 次年度以降の事業継続、横展開の計画

次年度以降については、本事業の実施を近隣市町に打診し、当該地域の幼児の運動機会提供を検討する。以前実施していた委託事業のスピンオフで草津市で事業化に至った例があり、同様のイメージで事業概要、効果等々を理解いただき予算化を検討いただく予定である。また、スポンサーを募り予算を獲得したうえで事業化する展開も検討しており、滋賀県内各市町に後援いただき、各地1回ずつ開催をするなど次善策として検討していきたい。

別途、幼児向け体育あそびスクールの展開を検討している。本事業においても、保護者から継続実施、スクール実施の要望を頂戴していることもありニーズを把握できていることも踏まえて前向きに進めていく計画。

(3) 今後の事業展開に向けて期待される sport in Life プロジェクトにおける取組

試験的に実施している各事業の中で成功したケースについて、全国各地で横展開しやすいよう委託事業、補助事業で予算をつけていただくことを検討願いたい。

また、今回同様、スポーツに関連する社会課題を解決するようなイメージの事業を公募されることで、民間のアイデアを用いて解決に近づくことができると考える。

国内外問わず、先進的なスポーツの取り組みに関しての情報を収集されたうえで、地域のスポーツ団体等へ展開いただくことで日本国内での横展開、アレンジなどによる新規事業化などに結びつく事例が増えると日本スポーツ界に資するのではないかと期待している。

総じて予算確保と先進事例共有を期待している。

7. 終わりに

幼児の運動機会阻害要因は予見していたものとほぼ同様であった。一方で、スポーツを好きになってもらうという観点では、「スポーツが嫌い」という層の子供たちにリーチする方法が難しく感じている。プロモーション時点で「スポーツをより楽しもう」というテイストではなく、「親子で運動を好きになろう」といったアプローチで強く打ち出すことが必要だったと思われる。

また、玉石混交している幼稚園や保育園で事業を実施することで、運動が嫌いな子供を強制的に参加させるようなやり方を模索しても良かったのではないだろうか。

別の観点では、保護者がいかに子供たちと楽しく遊ぶ機会を作れるかという意味で、保護者が子供たちと遊んであげる機会を阻害する要因を潰していく取り組みも必要である。遊び方がわからない、時間を作れない、運動の必要性を感じていない等といった要素が見受けられるため、継続的な運動や健康に関する啓蒙活動、遊び方の提案は、我々のようなスポーツを生業とする団体、事業者、行政が率先して課題解決を模索していくことが重要。

日本のトップスポーツとともにすそ野を広げる活動についても、各自治体レベルで取り組んでいかなければ健康寿命の延伸にもつながらず、スポーツ産業の発展にもブレーキをかけてしまうことを再度肝に銘じて、本事業の取り組みを今後の事業展開や政策展開に結び付けられるよう継続的に検討していきたい。

参考資料：アンケート調査票

【表面】

スポーツ庁 令和2年度「Sport in Life推進プロジェクト～楽しい運動あそび教室」

アンケートのお願い

この度は、スポーツ庁 令和2年度「Sport in Life推進プロジェクト～楽しい運動あそび教室」にご参加いただきまして、誠にありがとうございます。
下記のアンケートの回答にご協力をお願い致します。

Q1: 本日、ご参加頂いた学区をお知らせください。(○で囲んでください)

平野 澁賀 瀬田東 堅田 青山

Q2: ご参加頂いたお子様の年齢は？(○印で囲んでください)

4歳 5歳 6歳

Q3: お子さまの運動の好き嫌いについてお伺いします。(○印で囲んでください)

好き どちらかという好き どちらかという嫌い 嫌い

Q4: お子さまは、運動が得意ですか？(○印で囲んでください)

得意 どちらかという得意 どちらかという不得意 不得意

Q5: 今回運動教室にご参加頂いたことによって、お子様の運動に対する興味に
変化はありましたか？

0:「まったく変化がない」～10:「とても変化があった」のいずれかでご回答ください

_____ 点

Q6: 今回運動教室にご参加いただいたことによって、教室以外の場所(お家や近くの公園などで
運動を継続されるようになりましたか？

0:「まったく変化がない」～10:「とても変化があった」のいずれかでご回答ください

_____ 点

Q7: 具体的にどのような運動を継続的に取り組んでいらっしゃいますか？
簡単なイメージの記述でも構いませんので、お聞かせください。

Q8: Q7について、お子様の反応をお聞かせください。

※裏面にもあります

【裏面】

Q9: 今回運動教室にご参加いただいたことによって、保護者の方の運動に対する興味に変化はありましたか？

0:「まったく変化がない」～10:「とても変化があった」のいずれかでご回答ください

_____ 点

Q10: 保護者の方は日頃から身体を動かしていますか？

(○印で囲んでください)

日頃から動かすようにしている

時々、動かすようにしている

動かそうとしていない

Q11: 保護者の方が、運動・スポーツをする、あるいはしたいと思う理由についてお聞かせください。

(○印で囲んでください。複数、回答可)

仲間との交流として

記録や結果を残したいから

健康・体力増進のため

ストレス解消として

家族とのふれあいとして

楽しみとして

精神修養のため

運動不足解消のため

美容・肥満解消のため

Q12: 保護者の方は今後、運動・スポーツをやりたいと思いますか？

(○印で囲んでください)

ぜひ、やりたい

できたら、やりたい

あまり、やりたくない

やりたくない

Q13: 次回の改善点として、要望などをお聞かせください。

アンケートのご協力、誠にありがとうございました。

このアンケートは、スポーツ庁 令和2年度「Sport in Life推進プロジェクト～楽しい運動あそび教室」の事業のみに使用させていただき、2021年2月にスポーツ庁に提出する報告書の資料とさせていただきます。

何卒、ご理解の程、宜しくお願い申し上げます。



公益財団法人 滋賀レイクスターズ